

### 3 就業や就業以外の社会活動参加と総合生活満足度

つぎに、就業することや就業以外の社会活動へ参加することと総合生活満足度(Q38)の関係进行分析する。総合生活満足度の選択肢は、「満足している」「まあ満足している」「やや不満である」「不満である」の4つである。図表2が、国別に見た就業者と就業以外の社会活動参加者と総合生活満足度のクロス表である。

図表2 就業者及び社会参加活動と総合生活満足度

Country 国		Q38 Q38 総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。と Country 国のクロス表					合計	
		1 満足している	2 まあ満足している	3 やや不満である	4 不満である	5 無回答		
1 日本	activity	1 就業者 *	人数 143 activity の % 28.8%	人数 283 activity の % 57.1%	人数 52 activity の % 10.5%	人数 17 activity の % 3.4%	人数 1 activity の % 0.2%	人数 468 activity の % 100.0%
		2 社会活動参加者 *	人数 20 activity の % 60.6%	人数 12 activity の % 36.4%	人数 1 activity の % 3.0%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 33 activity の % 100.0%
		3 その他	人数 175 activity の % 30.5%	人数 340 activity の % 59.2%	人数 40 activity の % 7.0%	人数 19 activity の % 3.3%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 574 activity の % 100.0%
	合計	人数 338 activity の % 30.6%	人数 635 activity の % 57.6%	人数 93 activity の % 8.4%	人数 30 activity の % 3.3%	人数 1 activity の % 0.1%	人数 1103 activity の % 100.0%	
2 アメリカ	activity	1 就業者 *	人数 269 activity の % 67.8%	人数 108 activity の % 27.3%	人数 12 activity の % 3.0%	人数 5 activity の % 1.3%	人数 2 activity の % 0.5%	人数 395 activity の % 100.0%
		2 社会活動参加者 *	人数 125 activity の % 91.8%	人数 29 activity の % 17.0%	人数 1 activity の % 0.6%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 1 activity の % 0.6%	人数 165 activity の % 100.0%
		3 その他	人数 302 activity の % 69.6%	人数 106 activity の % 24.4%	人数 14 activity の % 3.2%	人数 6 activity の % 1.4%	人数 6 activity の % 1.4%	人数 434 activity の % 100.0%
	合計	人数 705 activity の % 70.0%	人数 242 activity の % 24.3%	人数 27 activity の % 2.7%	人数 11 activity の % 1.1%	人数 9 activity の % 0.9%	人数 984 activity の % 100.0%	
3 ドイツ	activity	1 就業者 *	人数 125 activity の % 54.8%	人数 90 activity の % 39.3%	人数 10 activity の % 4.4%	人数 4 activity の % 1.7%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 229 activity の % 100.0%
		2 社会活動参加者 *	人数 109 activity の % 63.0%	人数 60 activity の % 34.7%	人数 3 activity の % 1.7%	人数 1 activity の % 0.6%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 173 activity の % 100.0%
		3 その他	人数 267 activity の % 45.6%	人数 257 activity の % 43.9%	人数 49 activity の % 8.4%	人数 11 activity の % 1.9%	人数 2 activity の % 0.3%	人数 586 activity の % 100.0%
	合計	人数 501 activity の % 50.7%	人数 407 activity の % 41.2%	人数 62 activity の % 6.3%	人数 16 activity の % 1.6%	人数 2 activity の % 0.2%	人数 988 activity の % 100.0%	
4 スウェーデン	activity	1 就業者 *	人数 225 activity の % 61.5%	人数 132 activity の % 36.1%	人数 9 activity の % 2.5%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 0 activity の % 0.0%	人数 366 activity の % 100.0%
		2 社会活動参加者 *	人数 146 activity の % 68.2%	人数 66 activity の % 30.8%	人数 1 activity の % 0.5%	人数 1 activity の % 0.5%	人数 1 activity の % 0.5%	人数 214 activity の % 100.0%
		3 その他	人数 289 activity の % 56.9%	人数 163 activity の % 36.8%	人数 14 activity の % 3.3%	人数 4 activity の % 1.0%	人数 4 activity の % 1.0%	人数 420 activity の % 100.0%
	合計	人数 610 activity の % 61.0%	人数 361 activity の % 36.1%	人数 24 activity の % 2.4%	人数 5 activity の % 0.5%	人数 5 activity の % 0.5%	人数 1000 activity の % 100.0%	
合計	activity	1 就業者 *	人数 761 activity の % 51.2%	人数 613 activity の % 41.3%	人数 83 activity の % 5.6%	人数 26 activity の % 1.7%	人数 3 activity の % 0.2%	人数 1488 activity の % 100.0%
		2 社会活動参加者 *	人数 410 activity の % 70.1%	人数 168 activity の % 28.4%	人数 6 activity の % 1.0%	人数 2 activity の % 0.3%	人数 1 activity の % 0.2%	人数 586 activity の % 100.0%
		3 その他	人数 983 activity の % 48.8%	人数 666 activity の % 43.0%	人数 117 activity の % 5.8%	人数 40 activity の % 2.0%	人数 8 activity の % 0.4%	人数 2014 activity の % 100.0%
	合計	人数 2154 activity の % 52.7%	人数 1645 activity の % 40.3%	人数 206 activity の % 5.0%	人数 68 activity の % 1.7%	人数 12 activity の % 0.3%	人数 4085 activity の % 100.0%	

\* 1. 就業者 (仕事をしたい)

2. 社会活動参加者 (仕事以外にしたいことがある)

4 か国計で「満足している」の比率を見ると、社会活動参加者で70.1%と最も高く、就業者の51.2%を大きく上回っている。この傾向は、4 か国それぞれに該当する。さらに、生活満足度を4 か国で比較しやすいように、「満足している」を2点、「まあ満足している」を1点、「やや不満である」をマイナス1点、「不満である」をマイナス2点として、生活満足度を得点化して算出したものが図表3である。これによると、4 か国計で見ると、日本の生活満足度の得点(1.040点)が最も低く、他方で、アメリカ(1.627点)が最も高くなる。さらに、就業者と就業以外の社会活動への参加者に分けて生活満足度を見ると、日本も含めて4 か国とも就業者に比べて社会活動参加者の方が、生活満足度が高い。さらに、就業者と社会活動参加者の生活満足度のそれぞれを4 か国で比較すると、両者とも日本の生活満足度(就業者:0.976点, 社会活動参加者:1.545点)が最も低くなる。

図表 3 就業者及び社会活動参加活動と総合生活満足度得点

activity	Country 国	平均値	度数	標準偏差
1 就業者 *	1 日本	.976	495	1.0098
	2 アメリカ	1.583	393	.7619
	3 ドイツ	1.406	229	.8461
	4 スウェーデン	1.566	366	.6279
	合計	1.349	1483	.8797
2 社会活動参加者 *	1 日本	1.545	33	.6657
	2 アメリカ	1.811	164	.4371
	3 ドイツ	1.578	173	.6479
	4 スウェーデン	1.659	214	.5571
	合計	1.671	584	.5692
3 その他	1 日本	1.066	574	.9374
	2 アメリカ	1.598	428	.7786
	3 ドイツ	1.233	584	.9538
	4 スウェーデン	1.474	420	.7516
	合計	1.314	2006	.8971
合計	1 日本	1.040	1102	.9683
	2 アメリカ	1.627	985	.7299
	3 ドイツ	1.334	986	.8917
	4 スウェーデン	1.547	1000	.6725
	合計	1.378	4073	.8597

- \* 1. 就業者 (仕事をしたい)  
2. 社会活動参加者 (仕事以外にしたいことがある)

最後に、就業と社会活動参加を比較した場合、いずれが総合生活満足度をより大きく規定するかを分析しよう。分析手法としては、2項ロジット分析を用いる。被説明変数は総合生活満足度(ダミー変数、rq38)で、説明変数として就業(rq19)と社会活動参加(rq21)のそれぞれの有無(ダミー変数)を、さらにコントロール変数として、性別(rf1)、年齢(f2)、健康かどうか(rq4)、経済的な困難度(rq14)を投入した(年齢以外はダミー変数、Rは元の変数を変換した意味である)。なお、4か国全体の分析と日本のみの分析の2つを行ったが、前者では、スウェーデンを基準として国のダミー変数を分析に含めている。変数の加工など、図表4を参照されたい。

図表 4 2項ロジット分析に利用した変数

● 被説明変数 : rq 3 8 生活満足 1 = 1 (満足) + 2 (まあ満足) 0 = 3 (やや不満) + 4 (不満)
● 説明変数 rf1 男性 = 1 女性 = 0 rq21 仕事以外にしたいことがある = 1、それ以外 = 0 rq19 仕事をしたい = 1、それ以外 = 0 f 2 = 年齢(60歳から98歳) rq4 健康である = 1、それ以外 = 0 rq14 経済的困っている 1 = 1 + 2、それ以外 = 0

まず、4か国のデータで分析した図表5から見ていこう。就業していることは、統計的に有意ではない。つまり、就業は、他の変数をコントロールすると、生活満足度に影響するとは言えないことになる。他方、社会参加活動は統計的に有意で、社会参加活動を行うと、生活満足度は2.98倍になる。統計的に有意な他の変数を見ると、健康であると生活満足度が3.25倍になる。国の変数をみると、日本とドイツが統計的に有意で、それぞれの国だとスウェーデンを基準として、生活満足度が低下する方向に影響する。

図表5 生活満足の規定要因（2項ロジット分析：4か国）

モデル要約				モデル係数のオムニバス検定		
ステップ	-2対数尤度	Cox-Snell R2乗	Nagelkerke R2乗	ステップ	カイ2乗	有意確率
1	1651.711 <sup>a</sup>	.084	.215	ステップ1	355.648	.000
				ブロック	355.648	.000
				モデル	355.648	.000

a. パラメータ推定値の変化が.001未満であるため、反復回数7で推定が打ち切られました。

方程式中の変数

ステップ1 <sup>a</sup>	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
「社会活動参加」 rq21	1.091	.375	8.452	1	.004	2.977
rf1	-.116	.136	.727	1	.394	.891
「就業」 rq19	-.050	.154	.104	1	.747	.952
F2	.009	.009	.842	1	.359	1.009
「健康である」 rq4	1.177	.154	58.737	1	.000	3.246
rq14	-1.670	.139	144.873	1	.000	.188
「日本」 日本ダミー	-1.243	.220	32.005	1	.000	.288
「アメリカ」 米国ダミー	.192	.262	.540	1	.462	1.212
「ドイツ」 独国ダミー	-.500	.233	4.586	1	.032	.607
定数	2.670	.740	13.031	1	.000	14.446

a. ステップ1: 投入された変数 rq21, rf1, rq19, F2, rq4, rq14, 日本ダミー, 米国ダミー, 独国ダミー

次に日本のみのデータで分析した図表6を見よう。4か国全体と日本のみでは、分析結果が異なる。社会活動への参加は、生活満足度に対してそれを高める方向に影響するが、統計的に有意ではない。他方、就業は、統計的に有意であるが、生活満足度を低下させる方向に影響する。同じく、経済的困難であることは、統計的に有意で、生活満足度を低下させる方向に影響する。健康であることは、統計的に有意で、健康であると生活満足度を2.53倍高めることになる。

図表6 生活満足度の規定要因（2項ロジット分析：日本）

モデル要約				モデル係数のオムニバス検定			
ステップ	-2対数尤度	Cox-Snell R2 乗	Nagelkerke R2乗	ステップ	カイ2乗	自由度	有意確率
1	679.610 <sup>a</sup>	.100	.194	ステップ1	115.842	6	.000
				ブロック	115.842	6	.000
				モデル	115.842	6	.000

a. パラメータ推定値の変化が .001 未満であるため、  
反復回数 6 で推定が打ち切られました。

  

方程式中の変数						
ステップ1 <sup>a</sup>	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
「社会活動参加」 rq21	.705	1.048	.452	1	.501	2.023
rf1	-.119	.204	.339	1	.560	.888
「就業」 rq19	-.486	.232	4.396	1	.036	.615
F2	-.016	.015	1.112	1	.292	.985
「経済的困難」 rq14	-1.779	.205	75.258	1	.000	.169
「健康である」 rq4	.928	.212	19.189	1	.000	2.530
定数	3.551	1.150	9.534	1	.002	34.832

a. ステップ 1: 投入された変数 rq21, rf1, rq19, F2, rq14, rq4

## 5 まとめ

- ① 日本は、他の3か国に比較して、高齢期でも就業者が多いが、他方で、就業以外の社会活動への参加者が少ない。そのため、就業者と就業以外の社会活動への参加者を合わせて広義の社会活動参加率とすると、男女計でその比率が最も高い国はスウェーデンである。さらに、男女別でも日本が広義の社会活動参加率が高い国ではない。
- ② 生活満足度得点を4か国で比較すると、日本の生活満足度得点が最も低く、他方で、アメリカが最も高い。就業者と就業以外の社会活動への参加者の生活満足度を見ると、日本も含めて4か国とも就業者に比べて社会活動参加者の方が、生活満足度が高くなる。就業者と社会活動参加者のそれぞれの生活満足度得点を4か国で比較すると、両者とも日本が最も低い。
- ③ 統計分析によると、4か国のデータでは、就業することは、統計的に有意でなく、他の変数をコントロールすると、生活満足度を左右するとは言えない。他方、社会活動へ参加することは、統計的に有意で、生活満足度を高めることになる。日本のみのデータで分析すると、社会活動への参加は、生活満足度を高める方向に影響するが、統計的に有意ではない。他方、就業することは、統計的に有意であり、生活満足度を低下させる方向に影響する。
- ④ 以上によると、高齢期になったときに就業するという選択肢だけでなく、就業以外の社会活動への参加する機会を選択できるように、高齢期に到達する前から、就業以外での社会との繋がりを広げる取り組みを行うことは、高齢期における生活満足度を高めることに貢献すると考えられる。